令和4年2月　発地別延べ宿泊者数割合

【国内】

（単位：人泊、%）

	県内	福岡県	その他九州	四国	中国	近畿	中部	関東	東北・北海道	国内計
令和4年2月（速速報値）	25,789	50,834	19,691	3,051	9,264	15,572	7,971	32,236	2,952	167,360
令和3年2月（速速報値）	27,415	38,347	17,429	2,009	5,298	9,650	4,641	15,835	1,247	121,871
前年同月比	**94.1**	**132.6**	**113.0**	**151.9**	**174.9**	**161.4**	**171.8**	**203.6**	**236.7**	**137.3**
令和2年2月（速報値）	41,764	77,672	45,371	7,371	22,749	34,088	14,689	50,835	4,265	298,804
2020年同月比	**61.7**	**65.4**	**43.4**	**41.4**	**40.7**	**45.7**	**54.3**	**63.4**	**69.2**	**56.0**
令和元年2月（確報値）	52,852	76,322	46,029	8,301	21,056	30,312	12,384	48,786	4,559	300,601
2019年同月比	**48.8**	**66.6**	**42.8**	**36.8**	**44.0**	**51.4**	**64.4**	**66.1**	**64.8**	**55.7**
令和4年1月（速速報値）	41,340	79,751	34,434	5,583	15,229	22,680	8,539	37,785	3,225	248,566
前月比	**62.4**	**63.7**	**57.2**	**54.6**	**60.8**	**68.7**	**93.3**	**85.3**	**91.5**	**67.3**

【国外】

	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他アジア	欧米豪その他	外国小計
令和4年2月（速速報値）	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	1,685
令和3年2月（速速報値）	99	90	0	9	0	473	182	853
前年同月比	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	**197.5**
令和2年2月（速報値）	5,967	1,985	4,548	6,778	923	2,005	1,372	23,578
2020年同月比	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**7.1**
令和元年2月（確報値）	66,068	10,265	7,407	14,400	809	1,881	1,695	102,525
2019年同月比	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**1.6**
令和4年1月（速速報値）	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	1,857
前月比	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**＊**	**90.7**

＊令和４年発地別宿泊者数（速速報値）は、サンプル数が過小のため表示しない

【全体】

	合計
令和4年2月（速速報値）	169,045
令和3年2月（速速報値）	122,724
前年同月比	**137.7**
令和2年2月（速報値）	322,382
2020年同月比	**52.4**
令和元年2月（確報値）	403,126
2019年同月比	**41.9**
令和4年1月	250,423
前月比	**67.5**

①R3年1月調査から、宿泊客数調査の対象を従業員数10人以上の全施設(186施設)に変更しました。
この変更に伴い、R2年、2019年の公表値についても同規模施設数の推計値に再計算しています。
※発地別延べ宿泊者数は、速報の公表時に大きく変更されることがあります。

出典：大分県観光統計調査

＜傾向・分析＞

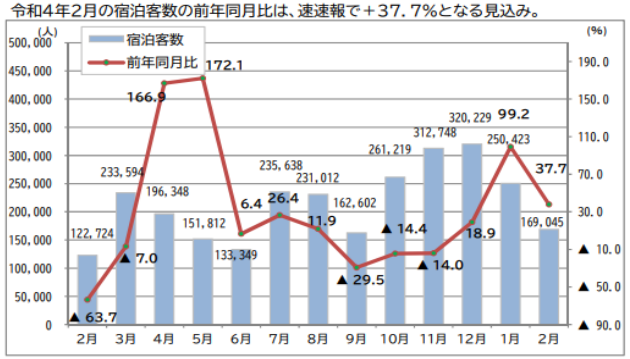
・国内の延べ宿泊者数は前年同月比137.3%。大分県では1月下旬より初めてまん延防止等重点措置が適用となり、新しいおおいた旅割も一時停止となったことなどから県内客は前年同月より減少しているが、全体的には第4波の影響で全国各地で緊急事態宣言が発令された前年同月に比べると増加となった。
一方、前月比は67.3%と、1月中旬からの全国的な感染者数の増加やまん延防止等重点措置の発令などにより旅行機運の低下が見られ、2カ月連続で前月を下回った。
コロナ禍前と比べても、前々年同月比56.0%、前前々年同月比55.7%と約半数程にとどまる。

・国外の延べ宿泊者数は、前年同月比197.5%、前月比90.7%。コロナ禍前の前々年、前前々同月比はいずれも7.1%、1.6%と依然とした入国制限等の影響により厳しい状態が続く。

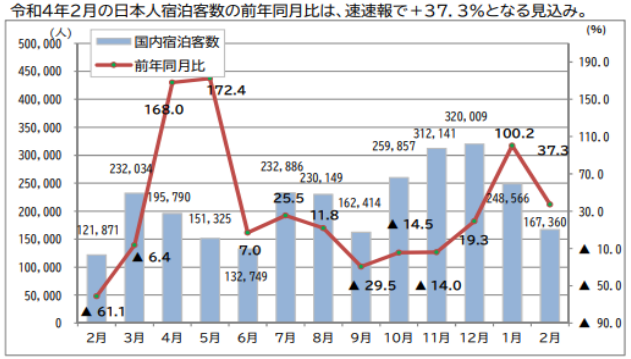
・全体の延べ宿泊者数は前年同月比137.7%。前々年同月比は52.4%、前前々年同月比は41.9%、前月比は67.5%。

令和4年2月の宿泊客等の動向
（令和3年2月～12月速速報、令和4年1月～2月速速報）

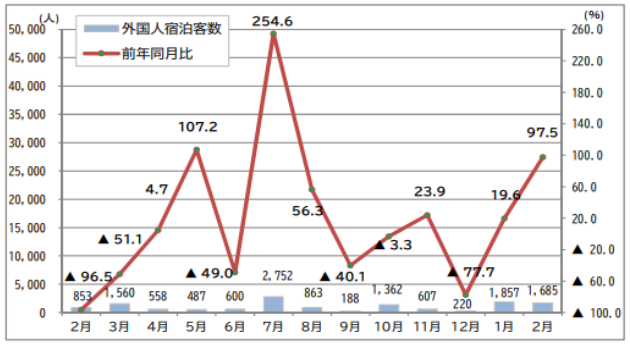
（1）宿泊客の動向
令和4年2月の宿泊客数の前年同月比は、速速報で＋37．7%となる見込み。



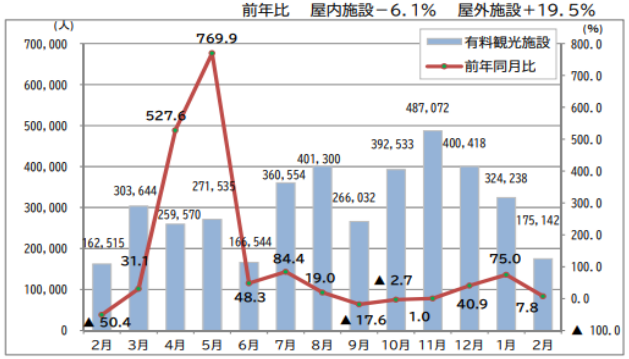
（1）－①日本人宿泊客の動向
令和4年2月の日本人宿泊客数の前年同月比は、速速報で＋37．3%となる見込み。



（1）－②外国人宿泊客の動向
令和4年2月の外国人宿泊客数の前年同月比は、速速報で97．5%となる見込み。



（2）有料観光施設（入場客）の動向
令和4年2月の有料観光施設（入場客）の前年同月比は、速速報で＋7．8%となる見込み。
（調査対象施設29施設）
前年比　屋内施設－6．1%　屋外施設＋19．5%



※観光施設の対前年比は、休廃業・未提出施設を除いて算出しているため、過去に公表している値と比較すると一致しない場合があります。

出典：大分県観光統計調査

＜傾向・分析＞

・日本人宿泊客は、昨年1月・2月と第4波の影響で一部地域に緊急事態宣言が発令されたことなどにより低水準となるが、その後、3月に緊急事態宣言の全面解除や、県民向け「新しいおおいた旅割」等の影響で増加。
しかし、4月に入り再び全国で感染者数が増加、全国各地で「まん延防止等重点措置」の適用や緊急事態宣言が発令され、減少に転じる。6月末に9都道府県にて緊急事態宣言が解除されたのち、7月には増加に転じるものの、7月末からの感染者数の増加や緊急事態宣言地域の拡大などにより8月・9月の宿泊客数は減少傾向が続いた。9月末に全国で緊急事態宣言が解除となり、「新しいおおいた旅割」も再開となったことから10月・11月は増加。
12月6日からは「新しいおおいた旅割」の対象に近隣県も加わったことなどから更に増加したが、オミクロン株の感染拡大の影響により1月・2月は2カ月連続で減少となった。

・有料観光施設の動向については前年同月比107.8%。一部地域で緊急事態宣言が発令された昨年同月と比べると微増したものの、大分県内もまん延防止等重点措置が適用となったことなどから前月比は大幅に減少している。

・外国人宿泊客は、世界でのオミクロン株感染拡大や依然とした入国制限の影響などにより低水準が続いている。

・全体においては、未だインバウンドの回復が見られない中、国内宿泊者の動きがそのまま反映されたかたち。
国内宿泊者の動きは、新型コロナウィルス感染症の拡大状況や各種規制措置等の有無、トラベルキャンペーン等の実施状況により変動しているとみられる。